

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

自 己 評 価 票
(花 ユニット)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域とのつながりを深めるための独自の理念(地域・利用者・太陽荘が一つの和になるように)を作り上げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニットごとに見える位置に掲げて常に意識付けるようにしている。会議やミーティングで共有し合い、また介護に係るダブルKM運動を推進しながらケアに活かせるように努めている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進協議会や家族介護者教室・諸行事等の機会に理解して頂くようにしている。また、荘で作成している広報に理念を載せ地域に配布している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	食材を頂いたり、外で会ったときは挨拶し世間話等をしている。ホームの行事に参加していただき、入居者と一緒に楽しんでいただいている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	矢巾町主催の行事・保育園・児童館の行事に積極的に参加したり、保育園児や児童館の子供たちが気軽に遊びに来てくださる。自治会長が運営推進協議会の委員になってくださり、協力してくださっている。	○ 自治会長を通してさらに地域住民との交流を実現させていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進協議会等で話し合っている。	○	地域高齢者の相談窓口になったり場所提供等を行うことを実現化させたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価を行い、日頃のサービスの内容を見直す良い機会だと理解している。評価結果で気付いたことはユニット間で随時話し合い改善に努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施している。入居者の状況・活動状況の報告をし、委員からはこれからのホームのあり方・地域への関わり方等意見を頂いている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者のことで相談したり、助言を頂いたりしながら連携を図っている。また、地域の情報をいただいたりして運営に活かしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会と連携しながら、必要な時は担当者が支援している。	○	全職員が理解しているわけではない。ユニット内で必要が出てきた時には勉強会を行う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、全体会議で話し合い、虐待防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際十分説明し、相談を受け話し合い納得をいただいた上で入居いただいている。入居後の相談にも応じている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者と1対1になった時に何かないか伺ったり態度からも気付けるように努力している。各会議・ユニットのカンファレンスで意見・苦情について話し合い、改善に向けている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の家族への手紙で生活状況・行事への参加状況・通院状況を報告し、体調不良や相談事があれば随時電話連絡している。面会時にも声をかけ報告している。金銭管理は金銭出納帳を整理し、コピーを家族へ送付している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを実施し、改善の参考としている。要望・意見等はミーティング・カンファレンスで取り上げている。また面会時に伺って話し合いをしている。	○	家族会の立ち上げはまだ実現されず、検討中である。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	アンケートの実施結果と共に全体会議等で自由に発言する機会を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事の時は人数を多くしたり、急に職員の欠勤が出た時はユニット間でお互い協力するなど柔軟に対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の移動は、支援が疎かにならないように必要最小限に努めている。離職に関しては話しをよく聞き相談に応じている。どうしても離職が生じた場合は引継ぎを十分に行い、ダメージが最小限になるよう良い環境保持に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修(OJT)・管理者研修・介護支援専門員研修・計画作成者研修・実践者研修・その他の研修への参加・各資格取得に向けた研修などを紹介している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に参加し、勉強会や意見交換を行なっている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務報告や幹部会での意見交換や全体会議での意見交換を行い、発言しやすい雰囲気作りに努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	総合的能力評価・役職手当・資格手当・各種研修会への参加・臨時賞与・有給休暇などにより、常にモチベーションを維持できるように努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の面接・本人希望による見学等を実施し、不安が生じないよう出来る限り柔軟に対応している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話や見学時等あらゆる機会を通じて家族の不安や望んでいることを聞き取れるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容から求めているものを見極めながらサービス全般について対応している。また、場合によっては他の機関を紹介している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう工夫している	見学していただき、雰囲気を感じていただいている。本人の生活歴や好み等を把握し、生活に取り入れることで徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や食後の後片付け・洗濯物たたみ・編み物・散歩等を一緒にやり、味付けやたたみ方・編み方を教えていただく中でコミュニケーションを図り信頼性を築く努力をしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年間行事・ユニット行事に家族も参加していただき、一緒に過ごし共に本人を支えあっていく関係を築けるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今までの状況を家族に聞き、今後どのように支援していくかを共に考え行動している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近所の人が面会に来られる。自宅や馴染んだ美容院に同行し、関係が途切れないよう支援に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	まとめ役の入居者に声掛けをしてもらったり入居者間に職員が入りコミュニケーションを取りやすくしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	面会に行ったり、電話等で状態を伺うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者と関わる時間を多く持ち、出来る限り本人の希望・意向を掴むように努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中で折に触れ昔の暮らしを思い出すような話題を提供したり、お聞きしたりしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の生活リズムを把握するため、観察・記録し職員間で情報交換・話し合いを重ねている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向や家族の意見を取り入れ、随時見直しを行いより良い生活が出来るよう介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間終了前であっても見直しを行い、本人の意思を確認・家族との話し合いを持ちすぐ対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録への記入・健康チェック表・食事チェック表等への記入を行い、実践・介護計画見直しに役立てている。また、連絡ノートの活用によって職員間での細かい情報も共有できている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	3ユニット間で協力して行なう行事や家族との外出・通院介助や買い物・理美容院など本人の意向に沿ったを幅広く柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	保育園や児童館との交流等で地域との接点を見出し、警察・消防とは、定期的に(年1回運営推進協議会において)入居者の状況を知っていただくことで協力を仰いでいる。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他施設への転居時に情報提供し、スムーズに利用できるように支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進協議会やケアサービス会議等勉強会に参加し、情報交換を行いケースに応じた支援を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に沿うよう心がけている。事業所対応にて受診し、家族に報告している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	信頼しているかかりつけ医との連携を保っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	2名の看護職員と共に相談しながら健康管理や医療活動の支援をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は本人への支援方法に関する情報を提供している。頻繁に面会に伺い不安を取り除く支援をしている。必要に応じて洗濯物・身の回りの世話を行っており、家族・病院と連絡を密にし退院支援に結び付けている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態の変化があるごとに家族と話し合いを持ち、今後の方向を検討している。現時点では終末期ケアは行っていない。	○	医療連携の確立
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアについて取り組みは行なわれていないが、状態の変化があるごとに家族と話し合いを持ち検討している。	○	今後、ターミナルケアについて検討していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	アセスメント・ケアプラン・支援状況の情報を提供すると共に馴染みの職員が訪問し不安の軽減に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳を損ねないように、日常の関わりの中で言葉遣い・特に排泄時の声掛けは注意している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個人の理解力に合わせた説明を行い、本人の思いや希望を出せるように支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の過ごし方を尊重し、本人のペースに合わせ買い物・散歩・レクリエーション等を行なっている。	○	自己選択・自己決定を軽視せず、実現へ向けて取り組んでいく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	床屋については意思を確認し利用していただいている。馴染みの美容院を希望の入居者については日時を調整し、外出介助を行なっている。着替えは本人の意向で決めており、職員は見守りや必要時介助・支援行なっている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	希望メニューを取り入れたり準備や片付けなども入居者と職員が一緒に行い、楽しく食事が出来るよう心がけている。食材購入も入居者と一緒に出掛けている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコは職員が預かり、本人訴え時、他入居者の迷惑にならないよう配慮し喫煙していただいている。飲酒については行事の時は支援できているが、日常的には行なっていない。	○	飲酒については本人・家族・医師と相談し、支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	習慣を把握し声掛け誘導している。失敗した場合は声掛けに配慮しながら対応し、清潔保持に努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	通院介助等で職員不足の時は希望に沿えない場合がある。週3～4回入浴している。	○	希望に沿えるよう努力する。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寝付けない場合は話を聞き不安を取り除くようにしている。また、ホットミルク等を飲んでいただき落ち着けるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力を発揮していただけるよう、料理作りや後片付け等役割を持っていただき感謝の言葉を伝えるようにしている。カラオケ・散歩・ドライブ・買い物等気晴らしの支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時、お土産を自分で購入できるようお金を渡し、支払うように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気・本人の希望に応じ散歩・買い物・ドライブ等に出掛け心身の活性化につながるよう支援している。入居者の機能低下により外出の機会は減ってきている。	○	健康管理を含めた体力減退防止の取り組みや外出の支援を工夫していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行きたい場所への外出計画を立て、職員の勤務調整をし支援している。また、家族にも参加していただき協力いただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より電話を掛けたいと要望があった時は職員が番号を押し本人に話しをしていただいている。手紙を出したいと希望される方には、出していただくよう対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時、爽やかに挨拶し、不快感を与えない雰囲気作りを心がけ、居室やホールにお茶を用意しゆっくり話が出来るよう支援している。馴染みの方の面会を歓迎している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害を理解しており、ミーティングやカンファレンス等で振り返り職員の共通意識を図って、点検している。	○	言葉遣い等に気をつけ、ケアに取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員間の連携で日中は鍵を掛けないケアに取り組んでいる。入居者が外へ行く時は、止めずに声をかけ一緒に外出するようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入居者の状況を把握し、夜間は数時間おきに様子を確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの能力に応じて職員が預かる場合と、ハサミ・カッター等居室内で自己管理している方も居る。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	状態を把握し、一人ひとりに起こり得る事故を予測し、未然に防ぐ努力をしている。	○	ヒヤリハットを活用している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の緊急対応について看護師・家族・医療機関等と連携し、迅速に対応できるように努めている。消防署が行なう普通救命講習Ⅱの講習も受けている。	○	応急手当等の講習会を実施していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年2回避難訓練を実施している。施設内での訓練に留まっており、隣近所にも参加の声掛けをしているが、協力を得られるまでには至っていない。	○	災害時に地域住民の協力を得られるよう、協力体制を作っていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	契約時に家族に話しをしている。また、状態に変化が生じた際も家族と話し合いを行なっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々観察し、いつもと違う時はバイタルチェックを行い、状況に応じて通院支援している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をケースに整理し、職員がいつでも確認できるようにしている。服薬時は本人に手渡し又は介助にて内服していただき、飲み込めたか確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の食材・乳製品を取り入れ、散歩・レクリエーション等で身体を動かすよう働きかけ、自然排便出来るようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声掛けにて歯磨きをして頂き、見守りを行なっている。自力にて出来ない場合は出来ない部分を介助している。義歯の洗浄も行なっている。	○	口腔ケアの講習会を設ける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者それぞれに合った食事の量を提供し、献立・食材は栄養バランスに重点を置いている。水分量は3回の食事時と3回のお茶の時間・夜間で確保できるように工夫している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後は手洗い・うがいをし予防対策に努めている。入居者・職員共にインフルエンザ予防接種を受けており。エアータオル・ペーパータオルをしようしているし、感染予防のマニュアルを作成し対策をとっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾の漂白・食品の在庫を管理し、賞味期限に気をつけながら使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周囲に花を植えている。玄関が広くなっており段差がなく、入居者・家族・近隣住民等も入りやすいように工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたスペースで居室と共有スペースが使い易く配慮されている。2階はバルコニーが広く、散歩したり外の景色を眺めることが出来る。玄関の外にはベンチがあり寛げたり、四季折々の花が飾られたり、職員・入居者の顔写真や行事の思い出の写真を掲示したりしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やホールで話しをしている。ホール内には気の合った仲間や一人で過ごせる空間を2ヶ所設けている。居室は一人部屋でプライバシーが保たれている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を置いたり、本人の趣味などで出窓に花や犬・猫の置物を飾るなどして楽しんでいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	入居者の体調を考えながら、こまめに換気を行なっている。居室にてポータブルトイレを使用している場合は、消臭剤・芳香剤等も使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで段差もなく台所やテーブルは入居者が使いやすい高さとなっている。椅子は入居者の状態によって使い分けている。	○	浴室・トイレの手摺りの見直しを考える。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室に個々の名前や「トイレ」「浴室」の表示をしている。混乱や失敗をした入居者には声掛けし、対応している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダを散歩したり洗濯物を干したり、食事をして頂く等して楽しんでもらっている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・定期的にカラオケ行事を実施している。歌が好きな入居者が多く、荘内で唄うことはもちろんだがカラオケに行き思いっきり唄うことが気分転換につながり心身の活性化につながっている。